



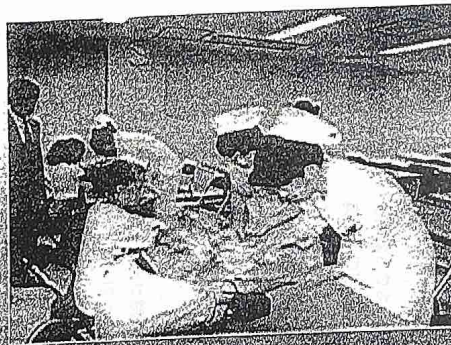
# 「チェルノブイリ・シンポジウム 2005 in Akita」

1986年4月26日に発生した旧ソ連ウクライナ共和国のチェルノブイリ原子力発電所爆発事故による影響は、18年経過した今もベラルーシ共和国の人々を苦しめています。風化しつつあるこの事故を教訓として、思い起こす必要があります。また、ベラルーシの魅力についても聞いてみませんか？

日 時：平成17年2月18日(金) 13:00 ~ 16:00  
場 所：秋田大学VBL棟大セミナー室(2F)

シンポジスト：

- LEONID I. BATYANOVSKY (在日ベラルーシ大使)
- ELEONORA K. KAPITONOVA  
(ゴメリ国際放射線医学・人間環境研究センター所長)
- 吉岡尚文 (秋田大学副学長)
- 伊藤金一郎 (秋田県学術国際局学術国際政策課副主幹)



主 催：日本ベラルーシ友好協会、秋田大学  
後 援：在日ベラルーシ大使館、秋田県、秋田市、  
(財)秋田県国際交流協会、あきた国際交流ネットワーク、  
県内各報道機関等

【お問い合わせ：秋田大学社会貢献・国際交流室 TEL 018-889-2270】

